

島根県学校体育研究連合会機関誌

島根の学校体育

— 第45号 —

令和 5 年 3 月

島根県学校体育研究連合会

目 次

巻 頭 言	島根県学校体育研究連合会会長 岸 本 行 夫	1
私と学校体育	島根県立飯南高等学校 来 田 良 博	2
令和4年度全国学校体育研究功労者の紹介	小 田 公 弘	3
.....	木 村 裕 幸	4
.....	来 田 良 博	5
令和4年度島根県保健体育功労者の紹介		6
各学校体育連盟から		
(小体連)	島根県小学校体育連盟理事長 三 島 康 紀	7
(中体連)	島根県中学校体育連盟理事長 加 地 真	8
(高体連)	島根県高等学校体育連盟理事長 山 中 清 恵	9
島根県中学校保健体育科研究会の取組	島根県中学校保健体育科研究会会長 嘉 儀 純 哉	10
全国学校体育研究功労者表彰受賞者一覧		11
島根県保健体育功労者表彰受賞者一覧		13
全国及び島根県保健体育優良学校表彰受賞校一覧		18
島根県学校体育研究連合会規約		21
令和4年度島根県学校体育研究連合会役員		22
令和4年度島根県学校体育研究連合会事業報告		23
令和5年度島根県学校体育研究連合会事業予定		23
第62回全国学校体育研究大会(山形大会)要項		24
編 集 後 記	編 集 委 員	26

第61回全国学校体育研究大会（滋賀大会）に参加して

島根県学校体育研究連合会会長 岸 本 行 夫

島根県学校体育研究連合会に加盟されている各校種団体におかれましては、日頃より学校体育の充実を通して子どもたちの体力・運動能力の向上にご尽力いただいておりますことに対し、厚くお礼申し上げます。また、今年度、全国学校体育研究功労者を受賞されました小田公弘様、木村裕幸様、来田良博様には、心よりお喜び申し上げます。

さて、昨年11月10日・11日の両日、「第61回全国学校体育研究大会 滋賀大会」が開催されました。3年ぶりに開催された全国大会では、大会主題を「豊かなスポーツライフの実現を目指した、子どもたちの発達段階に応じた系統的な体育・保健体育学習の充実」として、大津市民会館での全体会及び特別講演、そして、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を合わせて滋賀県内11の学校・園において授業公開・分科会が行われました。

滋賀県では、学習指導要領の趣旨の実現を目指し、昭和36年（1961年）から小・中・高に研究指定校を設定し、積極的な授業研究が行われるとともに、毎年研究発表大会を開催し、その研究成果の共有が行われてきました。また、指導と評価の一体化を図った単元計画の作成について共通理解を図り、平成23年からは特別支援学校も加え、校種を超えた授業交流を展開してこられました。

今回は、これまでの研究成果をもとに、育成を目指す資質・能力の三つの柱を幼児児童生徒が意欲的に身に付けようとする授業の在り方について、また、カリキュラム・マネジメントの視点から、校・園種間の接続を重視した指導内容の系統性を整理された目指すべき体育・保健体育学習の姿について提案発表がありました。さらに、シンポジウムでは「運動好きな子どもや日常から運動に親しむ子どもを育む体育・保健体育における学習指導の工夫」をテーマに、各校・園種における取組がシンポジストから発表されました。系統性を踏まえた指導内容の学びを大切にした授業の取組や、中学校における体育分野と保健分野の一層の関連を図った保健体育学習の実施など、会場も一緒になってディスカッションを行い、参加者全体で深めていく貴重な研修となりました。

本県の学校体育を振り返ってみると、それぞれの校種において子どもたちの実態を踏まえながら、運動に親しみ、生涯にわたってスポーツに触れ、取り組んでいける資質・能力の育成を目指し、熱心に体育的活動や保健体育学習が進められています。しかし、コロナ禍において運動の機会が減少し、運動に取り組む時間や方法がこれまでと違う環境にあることは、子どもたちの体力・運動能力だけでなく身体にも大きく影響を与えていると考えます。子どもたちの運動離れがさらに進むことが危惧され、そうならないためにも、感染拡大防止に配慮した運動の実施方法や運動ができる環境づくりを創意工夫し、実現することが我々体育指導者に求められていると思います。「運動が楽しい。もっとやりたい。できるようになりたい。」と感じる子どもたちを育成するためにも、私たちにできることをこれまで以上に追求し実践していくことが重要だと考えます。

こうした状況において、島根県の子どもたちの健康の保持・増進と豊かなスポーツライフを実現していくためには、異校種間のつながりを大切にしたり、各学校や個人の研究成果を積極的に共有したりする島根県学校体育研究連合会の活動が今後一層その役割を果たしていければと思います。

終わりにりましたが、「島根の学校体育」45号の発刊にあたり、ご寄稿いただきました関係の皆様方に心より感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「私と学校体育」

島根県立飯南高等学校 来 田 良 博

この度は全国学校体育研究功労者として表彰を賜り誠にありがとうございました。これを機に38年間の教員生活を振り返り、今後の学校体育の発展を祈念したいと思います。

大学を卒業する昭和60年は島根国体の関連から島根県高校体育教員の採用がなく、私は千葉県の県立学校で教員としてのスタートを切りました。当時はいわゆる荒れた学校の多い時代で「校内暴力」という言葉が頻繁に使われていました。千葉県の初任校もその典型的な学校で、「無断でバイクの免許をとり暴走族に入る」「男子は短ラン、女子は長いスカート」「髪型は男子のリーゼントに女子は聖子ちゃんカット」などが流行の時代でした。初任校での年間退学者は100名近くになる年度もあり、学校での喫煙も日常茶飯事で、生徒指導に全精力を使い教科指導どころではない毎日でしたが、同期採用の仲間に恵まれストレスの解消をしながら仕事を覚えていきました。

そこで学んだことは生徒とのコミュニケーション、信頼関係を作ることの大切さです。これは38年過ぎた今でも最も大切なことだと考えています。信頼関係のない中でどんなに正しい指導をしても、生徒の心に響かないことが多々あります。しかし、生徒に信頼してもらえれば、良く話を聞いてくれるようになり指導もスムーズになります。部活動は生徒との信頼関係をつくりやすい場面が多く、部活動で人間関係のできた生徒を校内でリーダーにしていくと、クラス経営も円滑になりました。当時の部活動は強い指導が主流で特に運動部では休みがなく、長い練習がくり返された時代です。長時間一緒にいて必死に部活動に取り組んだ生徒との絆は強く、卒業後もときどき集まっては近況を報告しあうことができるのは教員冥利に尽きることです。

学校体育で大切にしたいことは、保健分野でもある生涯に通じる健康だと考えます。生活習慣病、食事、運動、睡眠と休養、飲酒喫煙、心の健康など人生100年時代に向かって生きていく生徒たちに、体調を自己管理していく力をつけることが必要です。体育分野の「体づくり運動」では自分の体調に気づき調整することがテーマとなります。健康寿命を延ばしていくことは国民全体の課題でもありますし、その基礎が学校体育にあることを再認識しています。

コロナ禍、子どもたちの運動能力の低下が懸念されています。SNSの浸透と相まって自宅で過ごす時間が増え、運動機会が減少することはやむを得ないことだとは思いますが。そんな時代だからこそ日常生活に運動を積極的に取り入れ、自分の体の調子に気づき、整えることができる力が大切になるでしょう。

今後部活動指導などにおいて、社会体育への移行が進められていくと思いますが、教員にしかできない指導や子どもたちとの信頼関係が必ずあるはずです。多くの人々の助けを借りながらも、教員がリーダーとなって子どもたちの成長を支えていくことが最善であると思います。少子化による影響も受け運動部活動をする生徒・子どもたちの数が減ってきており、多くの種目において合同チームでの参加や学校の枠を超えた取組が模索される中、新しい学校部活動の時代が来ることは間違いありません。子どもたちが好きな運動を通して、失敗や成功の中から強さを持った自己を確立し、生涯にわたって運動・スポーツに関わっていく選択肢を選べるようにしたいものです。

最後になりますが、このような貴重な機会を頂きました島根県学校体育研究連合会の皆様、またご指導・ご支援を頂きました島根県教育庁保健体育課の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、島根県の学校体育が益々発展することを祈念し、お礼の言葉といたします。

令和4年度全国学校体育研究功労者 紹介

お だ きみ ひろ 小 田 公 弘

1 研究業績

歴任校では、体育主任として児童の体力向上や教科体育の充実に向けて、「わかってできる体育の授業」を目指し、スモールステップを踏んだ指導により、技能の向上を保障する体育授業の実践に意欲的に取り組んできた。また、出雲体育授業研究会のメンバーとして“がんばり体操と兄弟運動”を取り入れた器械運動の授業を実践し、平成元年には書籍にまとめ、その実践例を広く地域の学校に紹介した。

出雲市教研でも、数回にわたり授業を公開し、教材開発や、本運動につながる下位運動をゲーム化して取り入れるなど、提案性のある授業を公開し、地域の授業実践をリードすることもできていた。

県教育センター勤務の3年間は、年間120校の学校訪問を通して、各校に応じた体力づくりの進め方や、よりよい体育学習に向けて指導・助言を行った。そして、優れた実践例を集めたハンドブックや、「鉄棒運動」「マット運動」「なわとび運動」の指導用DVDを作成し、県下の全小中学校に配布し普及啓発に努めた。

また、初任者研修でも、教科体育の授業作りについて担当し、実技指導も含め指導・助言を行うなど、指導者育成にも尽力してきた。

2 学校体育研究団体における活動および役員等の略歴研究の成果

出雲市勤務時代は、出雲市の小体連事務局として、市小体連事業の見直しをするとともに、教科体育の延長上に各種大会を位置づけることにより、系統性のある年間指導計画の作成に努めた。また、教科体育の充実を目指し、県内外の指導講師を招いた研修会を企画・運営するなど、市内の教職員の体育科における指導力の向上に向けて積

極的に取り組んでいた。

県小体連の組織改変では、県小体連の「研究部」立ち上げに関わり、県内の体育授業研究会が進められる基盤を構築するとともに、自らも研究部メンバーとして、器械運動の指導や、陸上運動の指導について研修を重ね、他の部員をリードして研究を進めることができた。

また、県小体連の「研究部」立ち上げにともなって、各市町村小体連にも研究部ができ、中四国体育研究発表会での分科会発表も、個人から市町村発表となり、各地域での体育授業研究の活性化にもつなげることができた。

県教育センター及び浜田教育事務所指導主事としては、平成26年度中・四国小学校体育研究大会、平成28年度島根県教育研究会において、指導助言者として一人ひとりを大切に、運動の喜びを味わわせる体育授業の在り方について適切な指導助言を行った。

令和3年度からは、島根県小学校体育連盟副会長に就任し学校体育の発展に努めた。

以上、長年にわたり、学校体育や関連した活動の発展に貢献した。

3 勤続年数 35年

4 教職の略歴

昭和61年	出雲市立長浜小学校教諭
平成元年	赤来町立来島小学校教諭
平成5年	出雲市立塩冶小学校教諭
平成12年	出雲市立高松小学校教諭
平成17年	江津市立高角小学校教諭
平成21年	美郷町立大和小学校教頭
平成24年	県教育センター指導主事
平成27年	浜田教育事務所指導主事
平成29年	益田市立鎌手小学校校長
令和2年	江津市立江津東小学校校長

— 受賞にあたって —

この度は、全国学校体育研究功労者として表彰をいただきまして、誠にありがとうございました。受賞を大変光栄に思うとともに、これまでご指導・ご支援いただいた諸先輩や同僚の皆様方に厚く感謝申し上げます。

さて、今年は4年に一度のスポーツの祭典サッカーワールドカップが開催されました。そこでの選手の活躍は、多くの人に感動と勇気を与えてくれました。スポーツの持つ力を改めて感じさせてもらいました。スポーツ（運動）は、するのを見るのも楽しいものです。「楽しさ」についても、色々な捉えはあると思いますが、特に私は「できる」にこだわって体育授業を実践してきました。技能教科である体育は、やはりその技の習得を目指して取り組むところに特性があると感じています。できないことができるようになり、運動が上手になりたいという願いは誰にもあると思います。その思いを実現させる体育授業を目指して取り組んできました。十分な取組だったとは思いますが、その取組がお役に立てたら幸いです。

最後になりましたが、島根県学校体育研究連合会の今後の益々のご発展を祈念申し上げお礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

(小 田 公 弘)

令和4年度全国学校体育研究功労者 紹介

き むら ひろ ゆき
木 村 裕 幸

1 研究業績

中学校の保健体育科教員として研鑽を積んだ。

授業づくりにおいては、小学校や高等学校での教育課程も考慮しながら、各領域や単元における中学3年次の学びの姿を明確にし、単元計画や系統性を大切にしながら取り組んだ。また、生徒が意欲的に取り組むことができるよう教材等の開発や互いの関わり合いを生む教具の工夫に努めた。さらに、指導と評価の一体化についても研究を深めた。

平成23年度より3年間、島根県教育庁保健体育課の指導主事を務めた。学習指導要領が新しくなり、武道の必修化や球技が3つの型で示された時である。これらのことを受け、学習指導要領の理解と実践、安全な柔道の授業づくりについて、現場の課題を理解しながら適切な指導支援を行った。

まず、学習指導要領の理解と授業改善については、研修の企画運営や各市町での研修会等での講師、あるいは、県教育研究大会や各市町での研究大会での指導助言を務めた。特に、平成24年度の県中学校保健体育科研究会の研究大会においては、ベースボール型の授業の指導助言を行い、その後の各校のベースボール型授業の実践に大きな示唆を与えるものとなった。

次に、柔道の授業づくりにおいては、安全面の配慮や教科としての指導の在り方について、また、生徒の実態を踏まえて取り扱う技の例示や段階的な指導など、具体的な指導支援を行った。また、全日本柔道連盟や県柔道連盟と連携して、研修会等を実施したり、地域の柔道指導者を授業協力者として派遣したりする制度を構築した。

さらに、体力づくりの学校訪問では、主に中学校を訪問し体力づくりの必要性や各校の取組について、指導助言を行った。優れた実践を集めたハンドブックを制作し、県内全小・中学校に配布し、啓発普及に努めた。そして、島根県教育委員

会が取り組んだ教科リーダー養成研修では、保健体育科教員の資質向上を担い、授業づくりや授業力向上の他、単元計画や評価計画、評価規準の設定等について、年間を通じて指導助言を行った。研修を終了した教員は各地域での研修会等の講師を務め、保健体育科教育の推進役となるなど、多くの成果をあげることとなった。また、平成26年5月に福岡県で開催された文部科学省主催の「子どもの体力向上指導者養成研修」において、陸上競技の領域の講師を務め、当日の指導はもとより、事前の関係機関との打ち合わせや資料作成等にも精力的に取り組み、参加者にとって有意義なものとなるよう努めた。

2 学校体育研究団体における活動および役員等の略歴研究の成果

島根県教育研究会中学校保健体育科研究会の事務局や理事を歴任した後、令和元年度より3年間会長を務めた。事業として、先進地に経験の浅い教員を派遣したり、研修の場を設けたり、あるいは令和3年度にはコロナ禍で参加制限は設けたものの研究大会を成功裡に導いた。この研究大会においては、コロナ禍における体育授業の工夫やICTの活用等、参加者にとって大変参考となるものであり、島根県中学校保健体育科教育の振興発展に大きく寄与するものであった。

3 勤務年数 33年

4 教職等の略歴

昭和63年	安来市立第二中学校教諭
平成4年	石見町立石見中学校教諭
平成11年	江津市立青山中学校教諭
平成14年	瑞穂町立瑞穂中学校教諭
平成21年	大田市立北三瓶中学校教頭
平成23年	島根県教育庁保健体育課指導主事
平成26年	川本町立川本中学校教頭
平成28年	大田市立北三瓶中学校教頭
平成30年	江津市立青陵中学校校長

受賞にあたって

この度は、全国学校体育研究功労者として表彰をしていただき、誠にありがとうございます。今日までご指導・ご支援をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

これまで、体育の授業づくりにおいては、「分かる・かかわる・できる」を大切し、運動への愛好的態度の育成に向け、実践を重ねてきました。その後、島根県教育庁保健体育課に勤務し、各研究大会はもとより、県内の多くの学校を訪問し、体育の授業を見る機会をいただきました。なかでも、平成24年度に開催された島根県中学校保健体育科研究大会、隠岐大会は印象深いものとなりました。公開された授業や提案発表での学びの他、先生方の体育科教育への熱い想いに触れたことは、その後の私の大きな原動力となりました。これから、コロナ禍や生活様式の変化に伴い、体育科教育はその重要性を増すと考えます。体育科指導に取り組まれる先生方のご活躍と、島根県学校体育研究連合会の益々のご発展を祈念申し上げ、お礼の言葉といたします。

(木 村 裕 幸)

令和4年度全国学校体育研究功労者 紹介

き だ よし ひろ 来 田 良 博

1 研究業績

歴任校において、授業や部活動をとおして生徒の体力・意欲の向上や競技力の向上に取り組み成果を上げた。

体育の授業では、生涯を通じて運動・スポーツを継続できる能力の育成に主眼を置き、運動やスポーツの楽しさを味わわせる授業を工夫した。自らが生徒とともに体力作りを実践し、生徒自身が課題を解決する力を育んだ。

保健の授業では主体的な学びを重視し、ICT機器の活用をしながらグループワークを増やした。これにより、生徒の課題解決に向けた取組に積極性が見られ、体育と同様に生涯を通じた健康について理解を深めることができた。

全国規模の体育実技研修会に参加する等、常に学び続ける姿勢を持ちつつ、自分が学んだことを県内体育教員へ還元する取組を行った。また、各地区の高等学校実技研修会において、体づくり運動の授業展開について提案し、実技指導を行った。

部活動においては、全ての歴任校で野球部の監督を務め、春季県大会で2回、秋季県大会で1回優勝しており、中国大会には4回の出場がある。退部者を出さない部活動を指導理念として、全国に通用する技術・精神力を追求した。特にメンタルトレーニングの重要性を説き、日常生活・学校生活の充実が部活動の成果として現れることを選手に体得させた。人間形成が部活動の大きな意義となっている。

生涯スポーツを重視する指導は、人材の育成面からも成果を現しており、多くの生徒が島根県教員として若い力を発揮し、また次の将来を担う新しい人材を育てている。

2 学校体育研究団体における活動および役員等の略歴研究の成果

島根県高等学校保健体育研究会の委員として、教科としての保健体育の研究活動の振興を図ると共に会員相互の親睦を深め、本県高校教育の振興に尽力した。特に平成28年度開催の島根県高等学校保健体育研究大会では、研究主題『「生きる力」を育む保健体育学習を目指して』、サブテー

マ「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現の基礎を培う」と掲げ、地区委員として研究大会の開催準備及び運営面に携わり大会を成功に導いた。

平成21年度は、島根県で開催された全国学校体育研究大会において、事務局員として、開催準備及び運営に携わり大会を成功に導いた。その後、役員としての活動経験を活かし、授業研究や研究会に参加する等、意欲的に授業改善に取り組んだ。その結果、本県開催の研究大会の主題であった「確かな知識と技能を身につけ、学ぶ喜びを味わえる体育学習」への継続的な研究、取組につながった。中でも「わかる」「できる」「かかわる」を授業づくりの視点にすることで、高校生の体力向上につなげることができたのは、大きな成果であった。

島根県高等学校野球連盟において平成8年度から12年間、強化委員として指導者講習会の開催や選抜チームの指導など島根県高校野球の競技力向上に貢献した。また、平成25年からの4年間は普及委員として、野球人口の減少を抑えるため、子どもたちを対象とした保育園、幼稚園での野球体験会、小学生・スポーツ少年団・中学生との野球教室などを、小中学校の指導者と連携をとり企画・運営してきた。

また平成28年、高校野球の選手育成に貢献したとして、日本高野連と朝日新聞社が贈る「育成功労賞」を受賞。「ノックが一番の対話」と30年以上バットを握り、自らもランニングなどのトレーニングを続けて選手の模範となってきたことが評価された。

3 勤続年数 37年

4 教職の略歴

昭和60年	千葉県立君津農林高等学校教諭
昭和63年	島根県立浜田高等学校教諭
平成7年	島根県立三刀屋高等学校教諭
平成17年	島根県立出雲高等学校教諭
平成24年	島根県立松江北高等学校教諭
平成31年	島根県立飯南高等学校教諭

— 受賞にあたって —

この度は、全国学校体育研究功労者として表彰を賜り、誠にありがとうございました。これまでにご指導・ご協力をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

「体づくり運動」の研究には時間を費やし、研修の機会をいただいたことは貴重な経験となりました。日々の授業の大切さ、生徒との関わりの中で掛ける言葉の重みを改めて感じながら、残り少ない教員生活を全うできるよう努力を続けたいと考えています。

コロナ禍の影響もあり、児童・生徒の運動機会の減少や体育への取り組む姿勢の両極化など懸念される事柄もありますが、生涯を通じて健康な生活を送るための知識・判断力と、自らの体と対話出来る姿勢を体得してもらいたいと願っています。

最後になりますが、島根県学校体育研究連合会の益々の発展を祈念し、お礼の言葉といたします。

(来 田 良 博)

令和4年度 島根県保健体育功労者紹介（敬称略）

*校種別に50音順

にし お ひろ みち 西 尾 弘 道 前 出雲市立灘分小学校	歴任校において体育学習に熱心に取り組み、子どもたちの体力向上に努めた。特に旧平田市内での勤務時には、表現運動や器械運動、陸上運動などの運動領域において、実践をする中で開発した教材、教具等を市内の学校で活用できるように広めるなどし、各校での実践を促進した。教材、教具は現在でも活用されており、若手教員にとって指導力向上の一助となっている。
まつ うら なお み 松 浦 尚 美 前 出雲市立国富小学校	歴任校において、体育授業に積極的に取り組み、児童の体力や技術力の向上に努めた。特に、表現模倣運動の研究実践に取り組み、授業公開や実践発表に加え、定期的に表現ダンス研修会を開催することで指導者の学習機会を提供し、その発展に尽力した。さらに、表現発表会や教育舞踊の発表会に積極的に参加することで児童の表現力の向上につなげた。
まつ おか ゆう こ 松 岡 祐 子 出雲市立四絡小学校	フォークダンスや表現運動に関心をもち、基礎的な理論や授業研究の方法を学び、自らの技能の向上に努めた。その後、体育の授業を中心にダンスの指導を積極的に行った。管理職としても伝統的な踊りを通じて学校と地域をつなぐ役割を担い、伝統を受け継ぐことに力を注いだ。令和元年度から3年間、県学校体育研究連合会ダンス研修部会の会長として運営に尽力した。
み はら くに ひこ 三 原 國 彦 出雲市立伊野小学校	歴任校において、体育主任や保健主事として、児童の体力・運動能力向上や保健学習の推進に積極的に取り組んだ。平成11年度から3年間、勤務校が文部科学省の「体育・スポーツ推進校」の指定を受け、学習、遊び、健康の3つの分野から研究に取り組み、体育科教育の発展に尽力した。さらに、体づくり運動領域で中央研修を受講し、伝達講習の講師を務めた。
や だ えつ お 矢 田 悦 夫 大田市立大田小学校	歴任校において、児童の体力づくり・保健教育に積極的に取り組み、研究主任、体育主任として数々の研究大会を開催し、県内外に実践研究を発表した。また、県保健体育課指導主事として、全国学校体育研究大会島根大会で“島根の体育”を全国1,500名の参加者に発表し、同時期には「しまねっ子！元気アップ」の名称で7つの実践を重ね、体力向上の機運を盛り上げた。
てら ど あつし 寺 戸 淳 益田市立小野中学校	歴任校において、生徒の体力・運動能力の向上に積極的に取り組み、成果を上げた。平成19年度から4年間、益田教育事務所指導主事として、県教委主催の研修講座等で講師を務めるとともに、学校訪問や各研究会等で指導助言を行ってきた。校長歴任時には、毎年県内外から見識の高い講師を招聘して研修会を開催するなど、体育教員の授業力向上に尽力した。
にし むら じゅん 西 村 淳 浜田市立第二中学校	保健体育科教員として、運動の基礎・基本を大切にし、生徒の競技力、人間力を高めることを目的とした教科体育や部活動の指導、中体連行事等の一連の活動を通じて実践を重ねた。また、陸上運動の実践の成果を市教育研究会で発表したり、体育理論で中央研修を受講し、伝達研修の講師を務めたりするなど、体育教員の授業力向上に尽力した。
こ まつ まさ みち 小 松 正 道 島根県立安来高等学校	歴任校において、保健体育科の授業では、運動やスポーツの楽しさを生徒に感じさせる授業、生徒の興味関心が湧く授業展開を心がけた。部活動においては、剣道部の顧問を務め、生涯スポーツを重視する指導により、次代を担う人材を育成した。また、県高等学校体育連盟にも長年関わり、平成30年度の全国高等学校体育連盟研究大会島根大会では実行委員長として大会の成功に尽力した。

令和4年度 島根県小学校体育連盟の活動報告

島根県小学校体育連盟理事長 三 島 康 紀

1 本県の小学校体育科教育の充実に向けて

(1) 研究部の活動

研究主題『 動いて自覚し、動きの質を高め合う しまねっ子 ーなりたい姿のイメージをもち、「できそう」「できた」が連続する体育学習ー 』の実現に向けて、市郡ごとに運動領域を決め、主体的に学びを深めていく子どもたちの姿を実現する授業づくりについて、研究を進めている。

今年度は、市郡の研究主任の先生方と研究主題における「なりたい姿のイメージをもつ」ために、教師はどのような学習過程を構想していくとよいのかについて話し合いを進めた。そして、市郡ごとに「できそう」「できた」が連続する体育学習の具現化に向けて、授業実践を行った。

(2) 事業部の活動

小学校体育科の授業力向上を目指して、毎年、夏季研修会を実施している。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行った上で、8月2日（火）に夏季研修会を実施した。

○参加型模擬授業 「第2学年 マットを使った運動遊び」 清水 由先生

○授業解説 参加者グループ協議

(3) 編集部の活動

副読本「わたしたちの体育」を用いた授業実践を島根県小学校体育連盟のホームページに掲載して、県内の先生方に紹介している。

2 中・四国小学校体育研究大会への取組

第60回中・四国小学校体育研究大会（山口大会）

大会主題 『よりよいスポーツライフを志向する体育科学習』
ー子どもの「振り返り」の意識を手がかりにして課題解決の質を高めるー

第60回中・四国小学校体育研究大会（山口大会）は、光市立浅江小学校、島田小学校、浅江中学校の3会場に分かれ、久しぶりの参集型で大会を実施した。公開授業では、自己やチームの目標を達成するために、自分や友達の考えを大切にして、ひたむきに取り組む子どもたちの姿がたくさん見られた。午後からの分科会では、各運動領域の提案発表が行われ、中四国の先生方のこれまでの研究の成果をまとめた発表となった。本県からは、「器械・器具を使った運動遊び」領域の提案発表を山根佑太教諭（浜田市立美川小学校）が提案発表を行った。浜田市内の全小学校の協力のもと、児童や教員の使用感から鉄棒カードをより使いやすく効果的であるカードにパワーアップさせることで、鉄棒に夢中になる児童の育成を目指した実践を紹介した。



令和4年度 島根県中学校体育連盟の活動報告

島根県中学校体育連盟理事長 加 地 真

○令和4年度の大会を振り返って

本県では来年度よりブロック大会が始まり、地区大会は今年度で長い歴史に幕を閉じることになりました。そのような大きな変化を迎える中で、コロナ禍にあっても全ての大会を開催することを前提に、今までの経験を活かしながら、感染症対策を十分に施した上で主管中体連及び競技専門部のご尽力により、予定した全ての大会を開催することができました。特に猛暑の中での県総体や中国中学校選手権大会では、熱中症対策と感染症対策の両立が求められ、このため空調費を含み会場使用料等も莫大となりましたが、この部分を島根県より支援していただき、感染拡大を起こすことなく無事に終えることができました。大会開催に向けて関わっていただいた全ての方に深く感謝申し上げます。さて、本連盟では、一年間に実施される各種県大会において活躍した学校に岸記念賞を贈呈しています。本年度は松江市立第一中学校(5大会連続15回目)が受賞しました。また、小規模校に贈られる取組賞受賞校は松徳学院中学校(6大会連続8回目)でした。

今年度が最後となった石見地区大会総合優勝校は浜田市立第一中学校(2年連続9回目)、出雲地区総合優勝校は松江市立第二中学校(初受賞)でした。

また、8月上旬に中国五県で開催された中国中学校選手権大会では、16競技に948名が参加し、10競技195名の選手が北海道東北ブロックで開催される全国中学校体育大会への出場権を獲得しました。

○令和4年度全国中学校体育大会(北海道東北ブロック開催)を終えて

8月の猛暑の中「咲かせよう君の花 北の大地とみちのくで」を大会スローガンに掲げ、全国中学校体育大会が北海道東北7道県を舞台に開催されました。

6月29日に全国中学校体育大会実施上のCOVID-19感染拡大予防ガイドライン[第6番]が示されました。大会前1週間及び大会後2週間(約3週間)の体調記録を記入。ワクチン接種証明やPCR検査の陰性証明の提出は求められませんでした。また、今大会は式典を簡素化し、大会をミニマム化、大会ホームページの有効活用、デジタル化し、更に新型コロナウイルス感染症対策の中での2回目の全国大会ということもあって大きな混乱もなく、スムーズな大会運営が行われました。

そのような中で今年も複数の種目でチームと個人で島根県勢が上位入賞を果たしました。中でも奥出雲町立横田中学校ホッケー部男子が、宮城県栗原市で開催された全国中学校ホッケー選手権において、3大会ぶり7回目となる優勝の偉業を成し遂げたり、福島県福島市で開催された全国中学校陸上競技選手権大会において、出雲市立第三中学校の蒲生悠桜さんが女子800mで2位入賞(山陰中学校新記録)を果たしたりするなど目覚ましい活躍がありました。

主な結果

- ホッケー(宮城県栗原市)奥出雲町立横田中学校 男子 優勝
- 陸上競技(福島県福島市)出雲市立第三中学校 蒲生悠桜 女子800m 2位

○今後の取組

冒頭に述べたブロック大会の開始や部活動の地域移行、またそれに伴う中体連主催大会への地域スポーツ団体等の参加など、大きな変化が中体連に訪れます。これらの変化の中にあつて、島根県の中学生アスリートたちが県民の皆様に元気を与えられるような中体連を目指して取り組んで参ります。今後とも応援やご支援をよろしくお願いします。

令和4年度 島根県高等学校体育連盟の報告

島根県高等学校体育連盟理事長 山中 清 恵

○今年度の取組

コロナ禍も3年目を迎え、色々な制限が緩和され、少しずつ平常を取り戻しつつ、感染症対策を施しながら活動した年となりました。

今年度、県内大会を中止せず開催できたことは、各専門部が昨年度の感染症対策の経験を活かし、大会運営をしていただいたおかげだと思っています。特に県総体において、任意ではありましたが、急遽、関係者への抗原検査実施をお願いしたにもかかわらず、各専門部で適切な対応をしていただき、大きなトラブル、コロナ感染症によるクラスター等の発生もなく大会を無事終了できたことは、各競技にかかわってくださったすべての皆様のご協力のおかげであると感謝しております。

これからも感染症対策を施しながら安全・安心に行事等を実施して参ります。県高体連のさまざまな取組に対して、ご尽力いただいたすべての方々に感謝申し上げ、今年度の高体連の活動報告といたします。

○各競技の大会成績

各競技の大会成績を総括すると、昨年度末3月を中心に開催された春の「全国選手権大会・選抜大会」では、新型コロナウイルス感染症の影響により出場を辞退した学校もありましたが、6競技8種目で入賞がありました。なぎなた選抜大会において当時1年生の廣瀬米香（出雲北陵）の優勝は見事でした。今年度の夏のインターハイ「躍動の青い力 四国総体2022」は、原則有観客での実施となり、県高体連からも会長・理事長が大会会場へと足を運ぶことができました。大きな声での応援はできませんでしたが、県勢はホッケー競技の横田高校男子、カヌー競技の女子カヤックペア三島まりあ・橋本寧々（出雲農林高校）の優勝を筆頭に10競技32種目での入賞を果たし、昨年度を上回る好成績を残してくれました。

3年振りに開催された「第77回 国民体育大会 いちご一会とちぎ国体」では、少年は7競技17種目で入賞を果たしました。ここでも横田高校男子ホッケー部が優勝し、インターハイと併せ2冠。12月に開催された選抜大会でも優勝し、見事3冠を達成。14年振りの快挙を成し遂げました。

○今後の主な取組

今年度は「令和7年度全国高校総体中国ブロックの開催地」が公表され、島根県では、安来市でフェンシング、松江市で男子バレーボール、雲南市でレスリング、出雲市でなぎなた、美郷町でカヌー、浜田市で体操競技の6競技種目の開催が決定しました。今後は開催地市町、各競技専門部、県教育委員会等と連携を図り、調整・準備をしていくこととなりますが、大会成功に向けて努力していく所存です。

さて、県高体連はこれから激動の3年間を迎えようとしています。令和5年度から事務局を松江東高校に移し、令和6年度には山口県から中国高体連事務局が移転してきます。令和7年度は中国ブロックインターハイ開催と、通常の業務に加えて中国地区でのとりまとめを担う業務も増えてきますが、関係の皆様と報告・連絡・相談を密にして、「開かれた高体連」として精進して参ります。また、高校生アスリートの活躍が県民の皆様に「元気・勇気・感動」を与えてくれるよう県高体連としてサポートして参りますので、今後とも皆様の応援をよろしくお願いいたします。



【四国総体総合開会式前のテントにて】



【令和4年度県高体連事務局】

島根県中学校保健体育科研究会の取組

島根県中学校保健体育科研究会会長 嘉 儀 純 哉

1 はじめに

本研究会は、平成21年度に本県で開催しました全国学校体育研究大会（以下「全国学体研」）に向けて発足した研究会です。中学校保健体育科教員の授業力向上をはじめ、県内の児童・生徒の健康増進・体力の向上を目的として取り組んでいます。

全国学体研以降は3年ごとに研究大会開催を原則とし、平成24年度隠岐大会を初回として、これまで8回開催してきました。令和6年度は松江大会が決定しています。中学校の保健体育科は若い教員が徐々に増え始めていますが、各地域の市郡理事が主体的に研修会や授業公開を実施されているお陰で教員の指導力向上と授業改善が継続的に図られています。

2 今年度の取組

今年度も島根県教育庁保健体育課からのスポーツ庁助成事業をいただき、県外の研修講師を招いての授業づくり研修会や3年ぶりの先進地視察を実施することができました。県内の研修会は以下の通りです。

《益田市教育研究会保健体育部研修会》

○研修講師 日本ソフトボール協会 学校体育推進委員会

宮田 諒 氏（宮崎県延岡市立延岡小学校 教諭）

栗原 樹 氏（株式会社 広島東洋カープ 社長室野球振興グループ）

○研修内容 ベースボール型授業における効果的な指導法

《先進地視察》

○第61回全国学校体育研究大会 滋賀大会 11月10日（木）～11日（金） 3名派遣

大会主題「豊かなスポーツライフの実現を目指した、子どもたちの発達段階に応じた系統的な体育・保健体育学習の充実」

○山口大学教育学部 幼小中一貫教育実践研究発表会 11月25日（金） 1名派遣

研究主題「対象・他者・自己と向き合う子どもの姿」を視点とした保育・授業づくり

《令和の日本型学校体育構築支援事業 武道推進モデル校》

○出雲市立斐川東中学校：柔道・なぎなた ○安来市立第三中学校：柔道・少林寺拳法

○安来市立広瀬中学校：少林寺拳法 ○八束学園義務教育学校：柔道・弓道

3 今後について

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を見ると令和元年から連続して小・中学校の体力合計点が低下しています。その主な原因として、朝食欠食、睡眠不足、スクリーンタイムの増加などの生活習慣の変化や新型コロナウイルス感染症の影響により、マスク着用中の激しい運動の自粛などが考えられるとスポーツ庁は示しています。子どもたちが生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する力をつけるためには、ますます保健体育学習が重要になってきます。

本研究会といたしましても、今後も若手教員の育成と体育科教育推進に努めていきたいと思っております。

島根県学校体育研究連合会規約

(名称及び事務局)

第1条 本会は、島根県学校体育研究連合会と称し、事務局を、松江市殿町1番地 島根県教育庁保健体育課内に置く。

(目的)

第2条 本会は、学校体育に関する研究を推進するとともに、学校教育研究団体の連絡提携を図り、本県の学校体育の振興に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学校体育団体の育成と相互の連絡提携
- (2) 保健体育優良校及び保健体育功労者の推薦
- (3) 学校体育団体に関する講習会、研究会の開催
- (4) その他目的達成のために必要と認める事業

(組織)

第4条 本会は、小学校及び中学校の市郡学校体育研究の組織、高等学校保健体育研究会、大学・高等専門学校・短期大学及びダンス研修部会をもって組織する。

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 理事 若干名
- (4) 監事 2名

2. 役員は、評議員会において選出する。

第6条 会長は、本会を代表し会務を統括する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、あらかじめ会長の指名した副会長がその職務を代理する。

3. 理事は、会長、副会長とともに理事会を構成し本会の業務を執行する。

4. 監事は、会計を監査する。

第7条 役員の任期は2か年とし、再任することができる。

2. 補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

3. 役員は、その任期満了後でも、後任者が就任するまでは、なお、その職務を行う。

(評議員)

第8条 本会に、評議員を置く。

2. 評議員は、評議員会を構成し、この規約に定めるもののほか、本会の重要事項を審議し決定する。

3. 評議員は、第4条の各単位組織の代表をもって充てる。

4. 評議員が役員に選任された当該単位組織は、別に評議員を選出することができる。

(顧問及び参与)

第9条 本会に、顧問及び参与を若干名置くことができる。

2. 顧問及び参与は、評議員会の推薦を経て会長が委嘱する。

3. 顧問及び参与は、重要事項に関して会長の諮問に応ずる。

(会議)

第10条 本会の会議は、評議員会及び理事会とし、会長が必要に応じてこれを召集する。

2. 評議員会及び理事会の定足数は、2分の1以上とし、議事は、出席した構成員の過半数をもって決する。

(経費)

第11条 本会の経費は、負担金、寄付金、その他をもって充てる。

(会計年度)

第12条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事務局及び職員)

第13条 本会の事務を処理するために事務局を置き、事務局に事務局長その他の必要な職員（以下「事務局職員」という。）を置くことができる。

2. 事務局職員は、会長が指名しまたは委嘱する。

(規約の変更)

第14条 この規約は、評議員会において、3分の2以上の同意を得て変更し、または廃止することができる。

(委任)

第15条 この規約に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は会長が定める。

付 則

1. 本規約は、昭和47年4月1日から施行する。
2. 本規約は、昭和63年5月24日一部改正、昭和63年4月1日から適用する。
3. 本規約は、平成4年5月26日一部改正、平成4年4月1日から適用する。
4. 本規約は、平成26年5月30日一部改正、平成26年4月1日から適用する。

令和4年度 島根県学校体育研究連合会役員

役 職		氏 名	勤 務 先 ・ 職 名
会 長		岸 本 行 夫	松江市立東出雲中学校： 校 長
副 会 長	大学高専・高校・ダンス研修	田 中 晶 子	松江市立秋鹿小学校： 校 長
	出雲部代表理事	小 林 裕 昌	安来市立母里小学校： 校 長
	石見・隠岐部代表理事	寺 戸 淳	益田市立小野中学校： 校 長
	保 健 体 育 課	徳 永 恵 美	県教育庁保健体育課： 課 長
理 事	大 学 ・ 高 専	原 丈 貴	島根大学教育学部： 准 教 授
	高 等 学 校	小 松 正 道	安 来 高 等 学 校： 教 頭
	ダ ン ス 研 修 部	田 中 晶 子	松江市立秋鹿小学校： 校 長
	松 江 管 内	小 林 裕 昌	安来市立母里小学校： 校 長
	出 雲 管 内	嘉 儀 純 哉	雲南市立三刀屋中学校： 校 長
	浜 田 管 内	木 村 裕 幸	江津市立青陵中学校： 校 長
	益 田 管 内	寺 戸 淳	益田市立小野中学校： 校 長
	隠 岐 管 内	藤 田 宏	隠岐の島町立都万中学校： 教 頭
保 健 体 育 課	小 倉 庸 二	県教育庁保健体育課： G L	
評 議 員	松 江	岸 本 行 夫	松江市立東出雲中学校： 校 長
	安 来	小 林 裕 昌	安来市立母里小学校： 校 長
	出 雲	梶 谷 悟	出雲市立朝陽小学校： 校 長
	雲 南	嘉 儀 純 哉	雲南市立三刀屋中学校： 校 長
	仁 多	千 原 一 弘	奥出雲町立横田小学校： 校 長
	飯 石	和 泉 雅 史	飯南町立頓原小学校： 校 長
	浜 田	岡 田 憲 明	浜田市立松原小学校： 校 長
	大 田	小 松 原 弘 之	大田市立朝波小学校： 校 長
	江 津	木 村 裕 幸	江津市立青陵中学校： 校 長
	邑 智	佐々木 拳 匡	邑南町立矢上小学校： 校 長
	益 田	寺 戸 淳	益田市立小野中学校： 校 長
	鹿 足	岡 本 博	吉賀町立七日市小学校： 校 長
	隠 岐	藤 田 宏	隠岐の島町立都万中学校： 教 頭
	高 校	小 松 正 道	安 来 高 等 学 校： 教 頭
	大 学 高 専	原 丈 貴	島根大学教育学部： 准 教 授
	ダ ン ス 研 修	田 中 晶 子	松江市立秋鹿小学校： 校 長
監 事	梶 谷 悟	出雲市立朝陽小学校： 校 長	
	和 泉 雅 史	飯南町立頓原小学校： 校 長	
事 務 局 長		江 角 貴 人	県教育庁保健体育課： 指 導 主 事
事 務 局 員	宝 正 隆 志	県教育庁保健体育課： S L	
	伊 藤 広 志	県教育庁保健体育課： 企 画 幹	
	角 田 裕 之	県教育庁保健体育課： 指 導 主 事	
	吉 田 理 知	県教育庁保健体育課： 指 導 主 事	

令和4年度 島根県学校体育研究連合会事業報告

事業種別	事業名	期 日	場 所
会 議	第1回理事・評議員会 (1) 事業・決算報告 (2) 役員改選 (3) 事業計画・予算案審議 (4) 連絡事項 ①全国学体連優良校・功労者表彰 ②県保健体育功労者表彰 ③「島根の学校体育」の発刊 ④全国学校体育研究大会	5月11日(水)	松江市 島根県民会館
審 査 会	全国学校体育研究優良校・功労者 及び県保健体育功労者審査会	6月21日(火)	教育庁 教育委員室
研 修 会	第57回県学校ダンス指導者研修会	7月30日(金)	浜田市 ふれあいジムかなぎ
		新型コロナウイルス感染症の影響により中止	
大 会	第61回全国学校体育研究大会	11月10日(木), 11日(金)	滋賀県大津市 他
表 彰 式	島根県保健体育功労者表彰式	11月21日(月)	サンラポーむらくも
機関誌発行	「島根の学校体育」第45号 ※担当: 江津市	令和5年3月 発刊予定	

令和5年度 島根県学校体育研究連合会事業予定

事業種別	事業名	期 日	場 所
会 議	第1回理事・評議員会 (1) 事業・決算報告 (2) 役員改選 (3) 事業計画・予算案審議 (4) 連絡事項 ①全国学体連優良校・功労者表彰 ②県保健体育功労者表彰 ③「島根の学校体育」の発刊 ④全国学校体育研究大会	5月下旬	松江市
審 査 会	全国学校体育研究優良校・功労者 及び県保健体育功労者審査会	6月下旬	松江市
研 修 会	第57回県学校ダンス指導者研修会	7月28日(金)	浜田市
大 会	第62回全国学校体育研究大会	11月1日(水), 2日(木)	山形県山形市 他
表 彰 式	島根県保健体育功労者表彰式	11月中旬	松江市
機関誌発行	「島根の学校体育」第46号 ※担当: 邑智郡	令和6年3月 発刊予定	

編 集 後 記

新型コロナウイルスの感染拡大から3年が経過しました。この3年間で生活様式などにも変化があり、オンラインでの会議等も増加し、社会は進展したように感じます。しかしながら、失ったものも少なくないように思います。その中のひとつが、人と人との繋がりだと考えます。

今、社会は少しずつですが日常を取り戻しつつあります。それに伴い、国内においてもスポーツの各種大会が感染対策を講じてではありますが再び開催されるようになり、スポーツ中継も増えてきました。そこからは、選手の努力してきたことを発揮できる喜びや果敢に挑む勇気が伝わってきます。また、チームのために懸命に歯を食いしばる姿があります。さらに、選手を支えるスタッフや気持ちをひとつに声の限り応援するサポーターの姿も印象的です。それらの姿を観るにつけ、感動とともにスポーツの人と人を繋げる力を改めて感じることができました。こういう日が戻ってきたことを本当に嬉しく思います。

スポーツは、仲間はもとより対戦相手や応援をする人、あるいは、選手や大会を支える人たちが言葉や宗教、考え方や立場を超えて共に繋がり楽しむことができます。さらに、繋げるということでは、スポーツは自分と未来をつなぐ役目も担っているように思います。努力する力、出会った人からの影響、あるいは選手や大会を支えた感動、これらはその人の人生を切り拓く力となっているのではないのでしょうか。私たちスポーツや体育科教育に携わる者は、この繋がる力を大切に、さらにその充実に努めるとともに、子どもたちの心身の健やかな成長と生涯にわたって豊かなスポーツライフを送ることがきる資質や能力を育んでいきたいものです。

今年度、全国学校体育研究功労者を受賞されました来田良博様（島根県立飯南高等学校）、木村裕幸様（江津市立青陵中学校）、小田公弘様（江津市立江津東小学校）、心よりお喜び申し上げます。先生方の受賞のメッセージからは指導に対する熱い想いはもとより、教育そのものに対する情熱を感じることができ、授業者や指導者としてのあるべき姿を学ばせていただきました。そして、先生方の姿から、先生方と一緒に目標達成に向け頑張る子どもたちの姿や仲間と笑顔でスポーツや運動に取り組む子どもたちの姿を思い浮かべることができました。私たちは、先生方のご功績を大切にしながら、これからもそれぞれの立場で研鑽を積み、子どもたちの成長のために精進していきたいと思います。

数々の実践をまとめた「島根の学校体育」第45号の発刊に際しまして、全国表彰を受賞された先生方、各体育連盟や研究会等から寄稿いただきましたことに心から感謝申し上げます。

結びに、本会会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を祈念して、編集後記といたします。

編集担当：江津市